

特別史跡一乗谷朝倉氏遺跡を中核とする 地域文化観光推進地域計画

令和4年 2月

一乗谷朝倉氏遺跡活用推進協議会

目 次

1. 実施体制	1
2. 計画区域	2
3. 中核とする文化観光拠点施設	3
4. 文化観光の総合的かつ一体的な推進に関する基本的な方針	7
5. 目標	18
6. 地域文化観光推進事業	19
7. 計画期間	25

特別史跡一乗谷朝倉氏遺跡を中核とする地域文化観光推進地域計画

1. 実施体制

協議会	名称	一乗谷朝倉氏遺跡活用推進協議会		
申請者① 協議会の構成員 である市町村又 は都道府県	名称	福井市	所在地	福井県福井市大手3丁目10番1号
	代表者	市長 東村 新一		
	名称	福井県	所在地	福井県福井市大手3丁目17番1号
	代表者	知事 杉本 達治		
申請者② 中核とする文化 観光拠点施設の 設置者	名称	福井市	所在地	福井県福井市大手3丁目10番1号
	代表者	市長 東村 新一		
	名称	福井県	所在地	福井県福井市大手3丁目17番1号
	代表者	知事 杉本 達治		
申請者③ 文化観光推進 事業者	名称	一乗谷朝倉氏遺跡活用推進協議会	所在地	福井県福井市大手3丁目17番1号
	代表者	会長 山田 義彦		
	名称	福井市	所在地	福井県福井市大手3丁目10番1号
	代表者	市長 東村 新一		
	名称	公益社団法人福井県観光連盟	所在地	福井県福井市宝永2丁目4-10
	代表者	会長 山田 義彦		

2. 計画区域

福井市



3. 中核とする文化観光拠点施設

<p>文化観光拠点 施設名</p>	<p>福井県立一乗谷朝倉氏遺跡資料館 (令和4年10月～ 福井県立一乗谷朝倉氏遺跡博物館)</p>  <p>一乗谷朝倉氏遺跡資料館</p>  <p>資料館展示室</p>  <p>一乗谷朝倉氏遺跡博物館外観イメージ (令和4年10月開館予定)</p>
<p>主要な文化資源</p>	<p>一乗谷朝倉氏遺跡の発掘調査により出土した遺物（重要文化財2，343点を含む）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・戦いの道具（目貫、火縄銃関連など） ・日常用具（食膳、調理、暖房、化粧など） ・伝統文化の道具（茶の湯、香など） ・遊び道具（将棋の駒、碁石、羽子板など）  <p>目貫</p>  <p>火縄銃関連遺物</p>  <p>茶道具</p>  <p>化粧道具</p>  <p>将棋の駒</p>
<p>主要な文化資源についての 解説・紹介の 状況</p>	<p>○福井県立一乗谷朝倉氏遺跡資料館</p> <ul style="list-style-type: none"> ・出土遺物を中心とする関係資料を、朝倉氏の歩み、戦い、宗教と信仰、茶の湯と遊芸、住居、暖房と明かり、日常の道具や食膳具、調理と貯蔵具といったテーマごとに整理して、系統的に展示している。【参考資料1】 ・朝倉氏がどのような戦国大名であったのか、戦国期当時当主の館や武家屋敷、町屋などが建ち並び、1万人以上が暮らしたといわれる一乗谷の城下町がどのようなものであったのかについて、画像、古絵図、書状などの史料陳列に加え、模型（一乗谷の地形模型・城戸ノ内地形模型・朝倉義景館復元模型）や映像を用いて、わかりやすく解説している。 ・また、大量の出土遺物と、そこからわかってきた戦国期の城下町の生活や文化の様相について、イメージが湧きやすいようその出土物を用いているイラストや絵図とともに並べて、 <ul style="list-style-type: none"> ・大量に出土した陶磁器や漆器から食器の構成が、食物残滓からは食事の様子が明らかになったこと ・天目茶碗をはじめとする茶道具の出土状況から谷内で広く「茶の湯」が普及していたこと ・各階層に応じて茶や生花、聞香などの優雅な文化が楽しまれていたこと ・将棋や羽子突等の遊びも盛んに行われたこと

	<p>などを解説している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・約170万点もの出土遺物の中から選りすぐりのものをテーマごとに紹介する特別公開展（年4回）のほか、学芸員による歴史講座（年7回）、子ども向け体験講座（年4回）などを実施している。 ・展示物紹介や講座の動画配信により、自宅にいながら遺跡について学ぶこともできるほか、展示物の解説について「ポケット学芸員」アプリを導入し、音声案内にも対応している。[参考資料2] ・英語版リーフレットを配布し、海外からの来館者に対応している。[参考資料3] ・土日祝日には展示解説ボランティアを配置し、より深く学びたい来館者からの個別質疑に対応している。 <p>○新博物館開館後（令和4年10月～）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・拡大する展示スペースを活かし、「城下町一乗谷と人々の暮らし」、「戦国大名朝倉氏の歴史」、「華麗なる朝倉文化」といった大テーマのもと、出土遺物をさらにストーリー化してわかりやすく展示するとともに、下記の目玉展示を新たに行う。 <ul style="list-style-type: none"> ・石敷遺構展示：平成29年の発掘調査で発見された石敷遺構の現物をそのまま露出展示（船着き場や荷揚げ場の機能を果たす川湊を持った流通拠点「一乗の入江」の一角とみられる遺構） ・巨大ジオラマ：戦国城下町の町並みや当時の人々の営みを再現（遺跡現地の平面復原地区を発掘調査結果に基づき立体化） ・朝倉館原寸再現：全国唯一の戦国大名の居館の一部を館内に原寸再現、朝倉義景と同じ視点で当時の行事等を体験 ・遺跡のガイダンス映像や石敷遺構紹介映像をCG再現やARを活用して新たに制作し、当時の様子をリアルに体感できる展示を行う。 ・新博物館・遺跡双方において、モニター等を用いたリアルタイムの情報発信を行う。 ・新博物館・遺跡共通で使用できる、最新技術を活用した案内ツール（AR、オーディオガイドなど）を開発し、双方の相乗的な理解を促進する。 ・リーフレットやサインの多言語化については、日本語・英語を中心に、中国語（簡体字・繁体字）、韓国語についてはQRコードによる多言語情報取得を基本に対応していく。
<p>文化観光推進事業者との連携の状況</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・当計画の策定主体である一乗谷朝倉氏遺跡活用推進協議会は、(公社)福井県観光連盟をはじめとする観光団体、地元団体、福井県、福井市で構成し（協議会長：県観光連盟会長、事務局：県文化課）、平成16年3月に設立したものであり、設立以降、福井県・福井市双方からの負担金を財源に、遺跡における戦国期体感イベントの実施や交通アクセスの改善などの事業を継続して実施している。 ・年2回開催する総会において、協議会長を務める(公社)福井県観光連盟会長をはじめ、観光団体・地元団体・福井県・福井市が一堂に会して議論し、前年度事業の実績・成果の報告と検証、次年度の事業内容の検討を行っている。 ・観光団体として、(公社)福井県観光連盟のほか、(公財)福井市観光協会、日本旅行業協会中部支部福井地区委員会、福井商工会議所観光・サービス部会が参画しており、ノウハウに基づく客観的な意見を事業の実施・改善に役立てている。 ・地域文化観光推進事業の実施に当たっては、観光やコンサルティング等のノウハウを有する事業者によるオブザーバーやアドバイザーとしての参画も検討していく。

	<p>ドを実施しており、解説用パネルを持ち歩き、発掘が進められてきた様子や、地元ならではの伝承・裏話などを交えて、より深く学びたい来訪者に楽しんでもらえるよう工夫しながら案内している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・遺跡の中心部に位置する「朝倉氏遺跡復原町並」が遺跡の観光・案内等の拠点となっており、現在その指定管理者でもある地元団体（（一社）朝倉氏遺跡保存協会）が、上記タブレット貸出や団体客向け案内ガイドなどのサービス提供を実施している。 ・福井市の多言語対応観光地紹介サイト「Fukui City TRAVEL GUIDE」において、英語、中国語、韓国語、フランス語による解説を提供している。これらの解説は、遺跡内の主要ポイントの解説板32箇所に貼付されたQRコードからリンクしており、現地においてスマホで多言語情報を得ることができる。 ・地域文化観光推進事業においては、最新技術を活用した遺跡案内ツールについても、英語、中国語等に対応したものを想定している。
<p>文化観光推進事業者との連携の状況</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・当計画の策定主体である一乗谷朝倉氏遺跡活用推進協議会は、（公社）福井県観光連盟をはじめとする観光団体、地元団体、福井県、福井市で構成し（協議会長：県観光連盟会長、事務局：県文化課）、平成16年3月に設立したものであり、設立以降、福井県・福井市双方からの負担金を財源に、遺跡における戦国期体感イベントの実施や交通アクセスの改善などの事業を継続して実施している。 ・年2回開催する総会において、協議会長を務める（公社）福井県観光連盟会長をはじめ、観光団体・地元団体・福井県・福井市が一堂に会して議論し、前年度事業の実績・成果の報告と検証、次年度の事業内容の検討を行っている。 ・観光団体として、（公社）福井県観光連盟のほか、（公財）福井市観光協会、日本旅行業協会中部支部福井地区委員会、福井商工会議所観光・サービス部会が参画しており、ノウハウに基づく客観的な意見を事業の実施・改善に役立てている。 ・地域文化観光推進事業の実施に当たっては、観光やコンサルティング等のノウハウを有する事業者によるオブザーバーやアドバイザーとしての参画も検討していく。

4. 文化観光の総合的かつ一体的な推進に関する基本的な方針

4-1. 地域における文化観光を取り巻く現状

4-1-1. 主要な文化資源

○特別史跡—乗谷朝倉氏遺跡

- ・福井市には多くの文化資源が存在するが、その中でも一乗谷朝倉氏遺跡は、特別史跡・特別名勝・重要文化財の三重の指定を受けている、国内外に誇る超一級の歴史文化資源である。
 - ・昭和46年 278haの広大な範囲が国の特別史跡に指定
 - ・平成3年 遺跡内の主要な4庭園（朝倉館跡庭園、諏訪館跡庭園、湯殿跡庭園、南陽寺跡庭園）が特別名勝に指定
 - ・平成19年 約170万点の遺物の中から2,343点が重要文化財に指定
- ・昭和42年から現在まで、約半世紀にわたって継続して実施している発掘調査、歴史資料の調査研究により、戦国大名朝倉氏一族の居館、武家屋敷、町屋、寺院などを確認しており、山城も含めると、朝倉氏が約100年にわたって領国支配の拠点として築いた城下町の都市空間がほぼそのままに残されていることが明らかになっている。
- ・また、令和元年12月には、独立行政法人国立文化財機構奈良文化財研究所との間で、遺跡の保存技術の確立に向けた長期の連携研究協定を締結した。令和7年度まで連携研究を実施し、遺跡を確実に保存するとともに、研究成果は全国の史跡・名勝等の保存対策の基準となり得る。

○福井県立—乗谷朝倉氏遺跡資料館

（令和4年10月～ 福井県立—乗谷朝倉氏遺跡博物館）

- ・一乗谷朝倉氏遺跡の調査・研究成果を広く公開する施設として、また出土遺物などの貴重な文化財を後世に守り伝える施設として運営しているが、これまで以上に、遺跡の価値や魅力を強力に発信し、国内外からの誘客拡大につなげていくため、現在、その拠点となる「一乗谷朝倉氏遺跡博物館」の整備（資料館に隣接する位置に建設）を進めている（令和4年10月頃開館予定）。
- ・開館後においては、新博物館を遺跡のゲートウェイと位置付け、貴重な歴史資料を公開する特別展の開催や集客力のあるイベント実施などにより、年間約20万人の来館を目指す。
- ・資料館（新博物館）を拠点に、遺跡の価値や魅力に関する理解を深めた上で、遺跡等周辺の回遊を促すことを目指しており、文化観光の中核として相応しいものである。
- ・上記以外にも、福井市には様々な文化資源が存在するが、主なものについて記載する。

○福井県立歴史博物館

- ・歴史・民俗分野を扱う博物館として、古代から現代にいたるまで、福井の歴史をわかりやすく展示。
- ・昭和30～40年代の生活を再現した「昭和の暮らし」コーナーや、博物館の資料収蔵の様子を展示した「オープン収蔵庫」など、多彩な展示が特徴。

○福井市立郷土歴史博物館

- ・大名家の暮らしや文化、松平春嶽・橋本左内など幕末明治期に活躍した福井の先人たちについて、越前松平家に伝わった什宝や文書などにより紹介。
- ・その他にも、福井市内の古墳出土資料や、江戸時代の福井城・城下町関係の貴重な資料を展示。

○養浩館（旧御泉水屋敷）庭園

- ・江戸時代「御泉水屋敷」と呼ばれた、数寄屋造の屋敷を備える国指定名勝の回遊式林泉庭園。
- ・アメリカの庭園専門誌調査による日本庭園全国ランキングでは、2007年から7位以上をキープしており、海外からの評価も高い。

○北ノ庄城址

- ・織田信長による朝倉氏滅亡後、織田家筆頭家老 柴田勝家によって築城された巨大城郭跡。
- ・笏谷石製の石瓦で葺かれていたとされる。

○福井城址

- ・慶長6年から6年をかけて福井藩主 結城秀康（徳川家康次男）が築城した福井城の跡。
- ・本丸を中心に、二の丸、三の丸、四の丸と四重の堀に囲まれ、笏谷石で造られた本丸の石垣と堀は現在も良好な状態で残っており、福井藩68万石の繁栄ぶりを今に伝えている。

○大安寺

- ・明暦3年（1657）に福井藩第4代藩主 松平光通によって創建された臨済宗寺院。
- ・歴代福井藩主の菩提寺として知られ、現在も当時の姿をそのままとどめている。
- ・大型の本堂と庫裏、その周囲の開山堂、開基堂、鐘楼といった中心建物は、国の重要文化財にも指定。

4-1-2. 観光客の動向

○一乗谷朝倉氏遺跡資料館の入館者数（実人数）動向

- ・平成30年度までの入館者数は、年間約6万人で推移していた。
- ・令和元年度においては、一乗谷朝倉氏遺跡がNHKの人気番組「ブラタモリ」で紹介されたことや、遺跡を含む「石のまちづくり」のストーリーが日本遺産に認定されたこと、令和2年大河ドラマ「麒麟がくる」の主人公・明智光秀ゆかりの地として注目されたこと（4～7月にかけて特別公開展「明智光秀と戦国越前」を開催）などから、入館者数は約8万8千人となり、開館以来最多となった。
- ・令和4年10月の「一乗谷朝倉氏遺跡博物館」開館後においては、新博物館を遺跡のゲートウェイと位置付け、貴重な歴史資料を公開する特別展の開催や集客力のあるイベント実施などにより、年間約20万人の来館を目指す。

<一乗谷朝倉氏遺跡資料館 入館者数の推移>

平成27年度	約5万9千人
平成28年度	約6万1千人
平成29年度	約5万7千人
平成30年度	約6万5千人
令和元年度	約8万8千人

- ・入館者アンケートの集計結果によると、県外客が80%以上を占めており、中部・近畿が全体の約50%、次いで関東が約20%となっている。
- ・海外からの入館者は、全体の約0.5%である。
- ・年齢層は、歴史に興味のある層と考えられる60～70代が全体の約40%を占めている。

○一乗谷朝倉氏遺跡の観光客動向

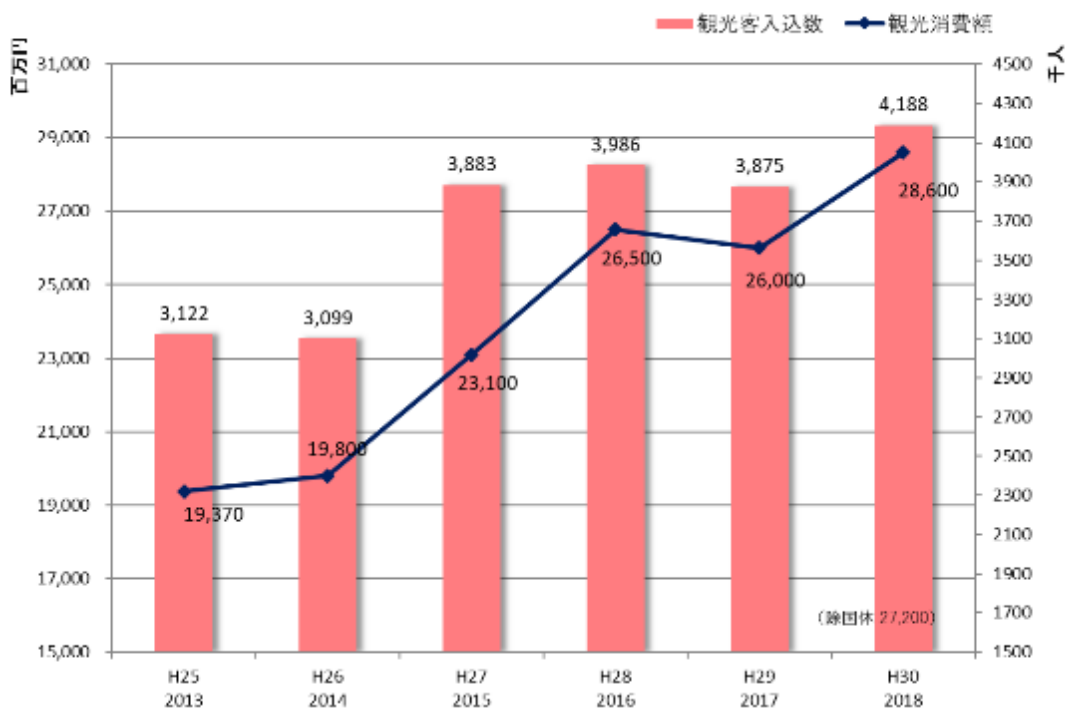
- ・平成27年の観光客入込数は、同年3月の北陸新幹線金沢開業効果や携帯電話CM等の効果も残っており、107万9千人を記録したが、依然として低い認知度に加え、近年は白山開山1300年や大瀧神社1300年例大祭開催などによる旅行会社の送客エリア変更が影響し、平成30年までの間、入込数は年々減少していた。
- ・令和元年においては、前述した理由から来訪者が増加し、105万7千人を記録した。

<一乗谷朝倉氏遺跡 観光客入込数統計の推移>

平成27年	1,079千人
平成28年	901千人
平成29年	803千人
平成30年	722千人
令和元年	1,057千人

○福井市の観光客動向

<観光客入込数および観光消費額>

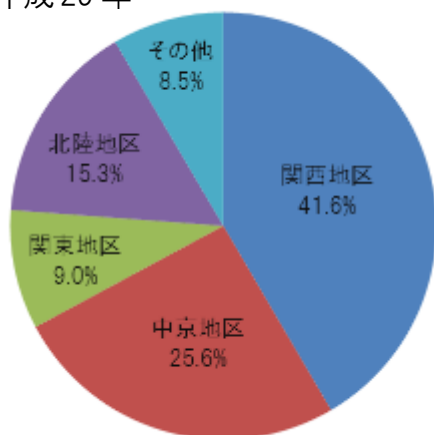


- 平成27年3月の北陸新幹線金沢開業効果により一気に観光客入込数が増加し、平成30年度には福井しあわせ元気国体・障スポの開催や山里口御門の復元などの影響でさらに大きく入込数が増加した。入込数の増加に伴い、観光消費額についても大きく増加している。

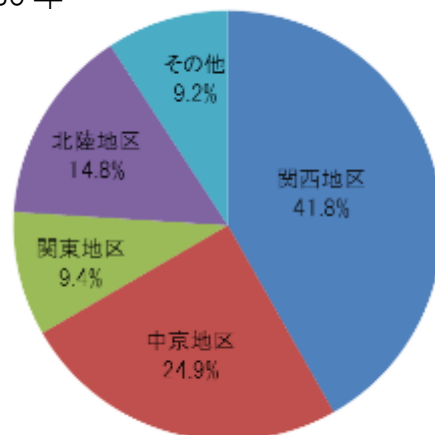
(出典；福井市観光推進計画)

<県外客発地別構成率>

平成29年



平成30年



- 県外からの観光客は811.5万人(対前年比+0.5%)。北陸新幹線の主要停車駅である上野駅や大宮駅などの首都圏において県市町連携した集中プロモーションを継続して実施したことなどによ

り、引き続き入込数が増加しているものの、まだ割合としては多くない。圧倒的に関西地区や中京地区からの入込が多く全体の約7割を占めている。(出典：平成30年福井県観光客入込数(推計))

- 福井市における外国人宿泊者数について、令和元年は、約2万5千人となっている。訪日外国人観光客が増加する中、台湾、タイ、フランスをターゲットとした商談会や営業活動、イベントへの出展、販路開拓を行った。その結果、福井県内における外国人宿泊者数は順調に増加しており、さらに京都や金沢に近いという立地はインバウンド向け観光ルートとして大きな武器になる。

4-1-3. 他の地域との比較

- 北陸新幹線福井・敦賀開業に向けた観光戦略を立てるため、令和元年7月に、福井市において、「首都圏における観光消費マーケティング調査」を下記のとおり実施した。

調査設計

関東地方(一都六県)居住の20~69歳の生活者に対して、以下の設計で調査を実施した。本調査は、スクリーニング調査の結果から、北陸旅行者、非北陸旅行者、福井旅行者の三層を抽出し、それぞれに対して調査を実施した。

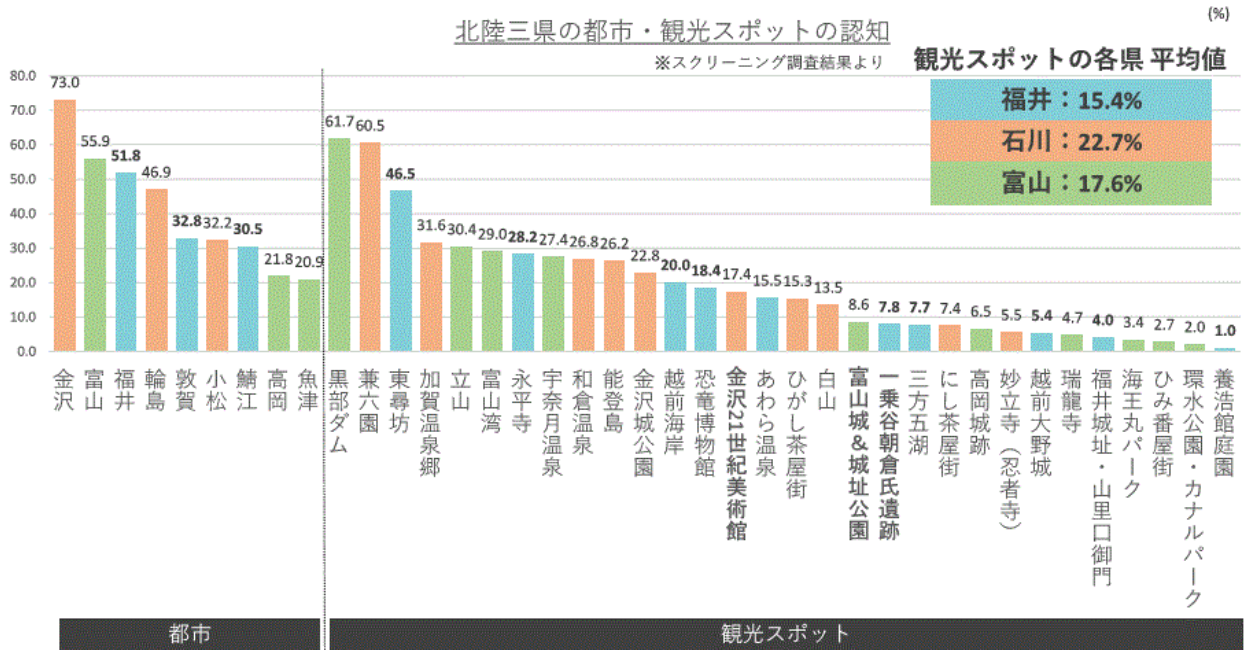
	スクリーニング調査	本調査		
		①A 北陸旅行者	①B 非北陸旅行者	② 福井旅行者
調査手法	インターネット調査(二段階調査法)			
調査期間	2019年6月21日 ~7月5日	2019年7月3日 ~7月10日		
対象者条件	関東地方(一都六県)居住者の男女20~69歳 ※調査会社保有の調査モニターを使用			
	過去1年以内の国内旅行経験あり			
	過去1年以内の 北陸三県の 旅行経験あり	過去1年以内の 北陸三県の 旅行経験なし	過去3年以内の 福井県の 旅行経験あり	
有効回収数	24,891s	1,000s	1,053s	514s
割り付け	関東地方(一都六県) の性年代の人口構成比 に合わせて回収	スクリーニング調査からの自然出現で回収 ※調査①A内については、スクリーニング調査結果の北陸三県への訪問率を元に、 各県の訪問者の回答結果に重み付け(ウェイトバック)をして集計		

4

- 福井の観光スポットの認知状況は約16%となっており、その中でも一乗谷朝倉氏遺跡は7.8%、養浩館庭園については1.0%の認知と少なく、東尋坊の46.5%、永平寺28.2%と比べて大きく劣っている。

北陸三県の観光スポットの認知 全体

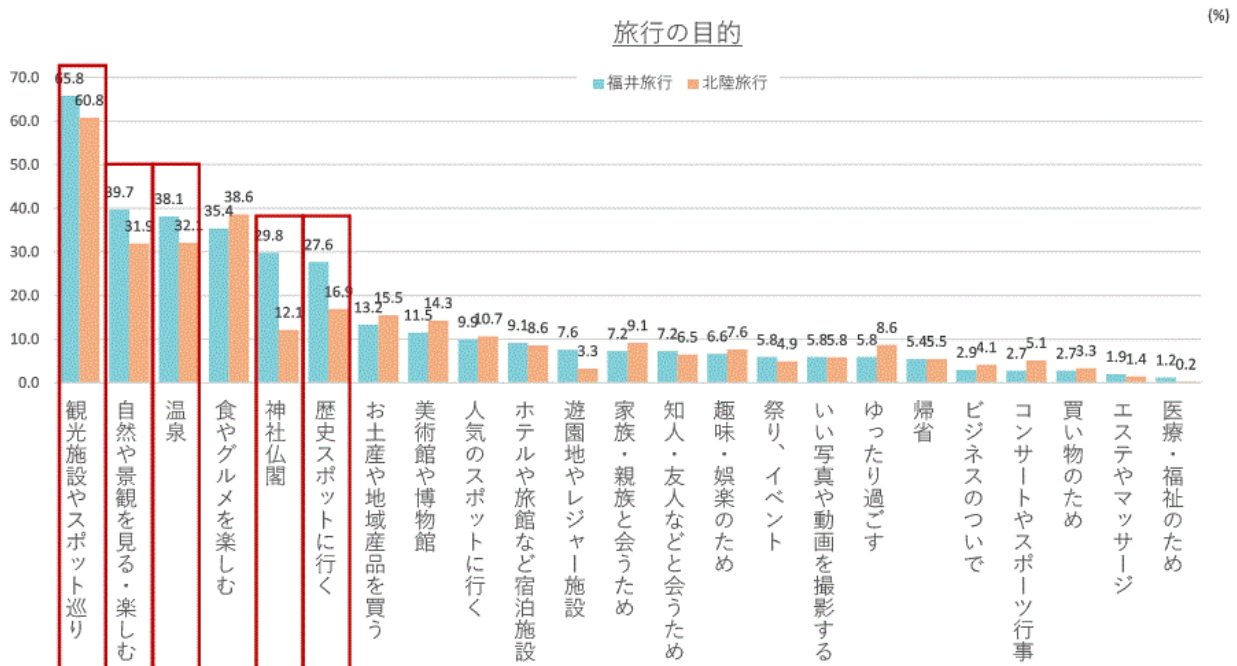
- 北陸三県の主要都市それぞれ3都市ずつ、観光スポットをそれぞれ10スポットずつ提示して、認知を聴取した。
- 都市では「金沢」がもっとも高く7割を超え、観光スポットでは「黒部ダム」と「兼六園」が約6割、次いで「東尋坊」46.5%となっている。
- 観光スポットの認知率の平均値は、石川、富山、福井の順となっている。



16

旅行目的 北陸旅行と福井旅行

- 北陸旅行の目的は、「観光施設やスポット巡り」65.8%がもっとも高く、次いで「自然や景観」、「温泉」が3割を超えて高い。
- 北陸旅行と比較して、福井旅行の方が特に高いのは、「神社仏閣」と「歴史スポット」。

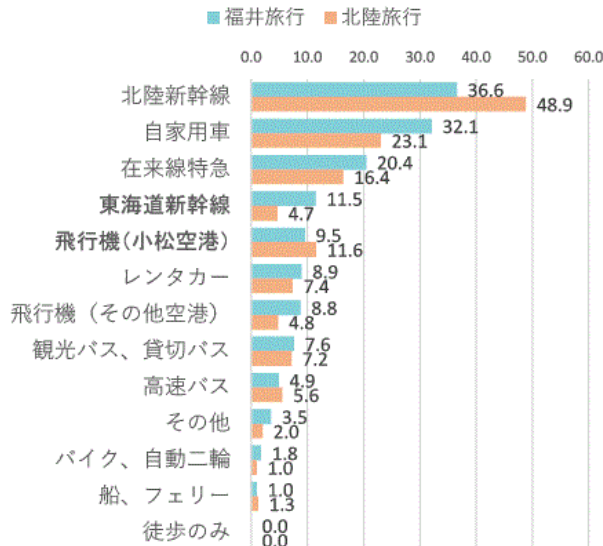


23

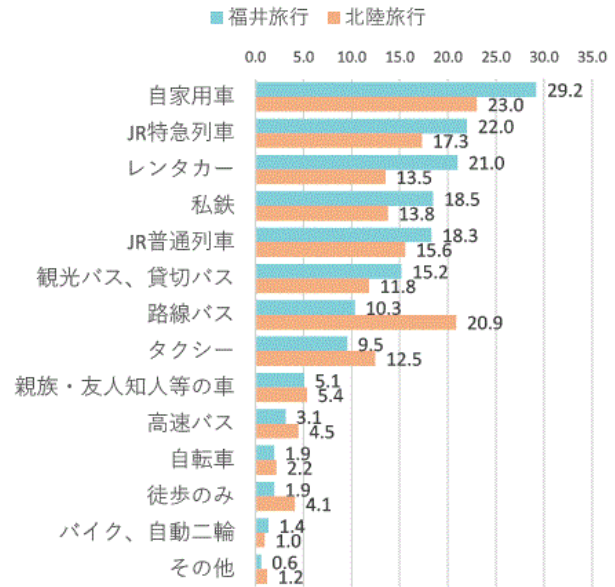
旅行スペック ②交通手段

- 福井旅行の福井エリアまでの交通手段の上位は、「北陸新幹線」36.6%、「自家用車」32.1%、「在来線特急」20.4%で、北陸旅行との比較では「自家用車」が特に多い。
- 福井旅行の福井エリア内の交通手段の上位は、「自家用車」29.2%、「JR特急列車」22.0%、「レンタカー」21.0%で、北陸旅行との比較では「路線バス」が特に少ない。

エリアまでの交通手段



エリア内の交通手段



(%)

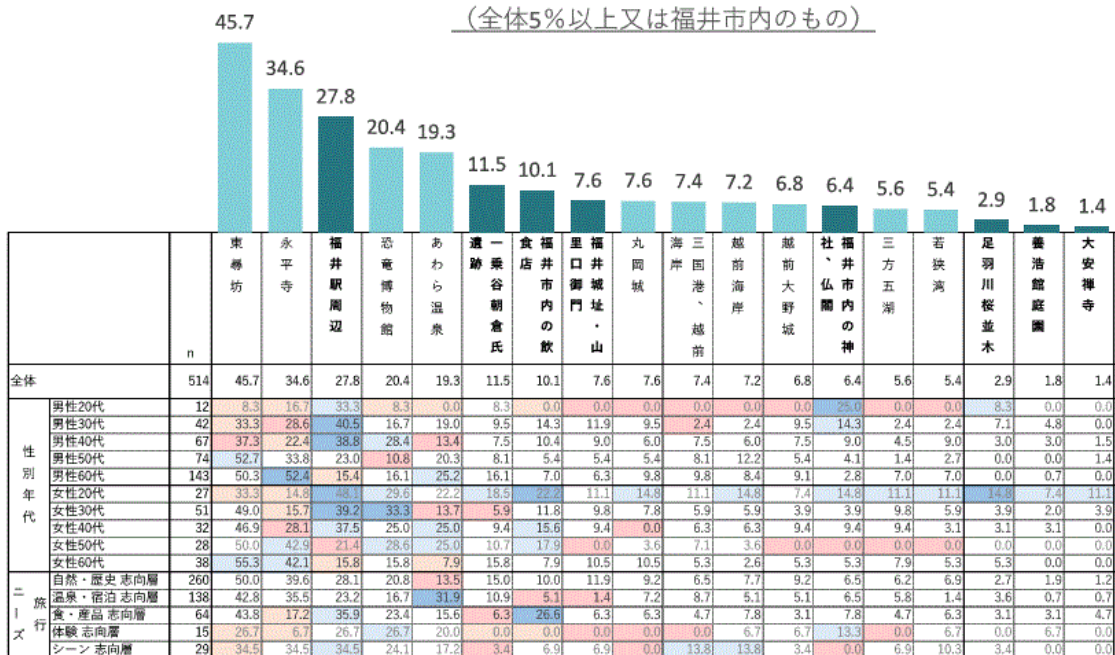
27

経験内容 ①観光スポット

- 福井旅行で訪問したスポットの上位は、「東尋坊」45.7%、「永平寺」34.6%、「福井駅周辺」27.8%。
- 「福井駅周辺」以外の福井市内の観光スポットでもっとも訪問率が高いのは、「一乗谷朝倉氏遺跡」11.5%。

福井旅行で訪問した観光スポット

(全体5%以上又は福井市内のもの)



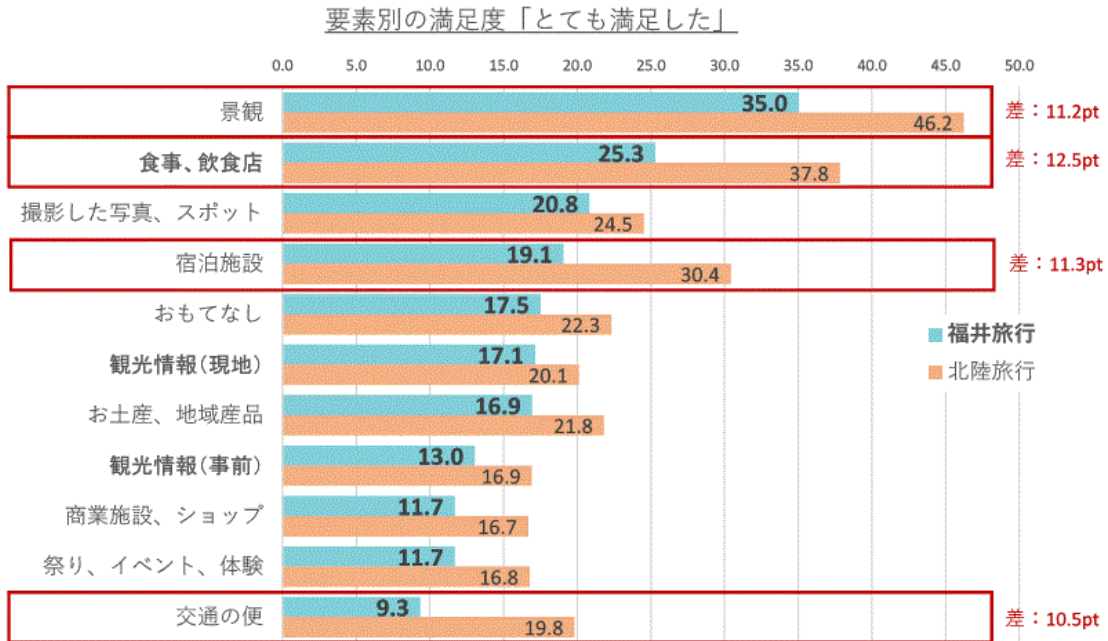
(%)

グレー字：n数30未満 ■全体+10pt以上 ■全体+5pt以上 ■全体-10pt以下 ■全体-5pt以下

30

経験者の福井旅行の評価 ①個別評価 全体

- 福井旅行の満足度として高いのは、「景観」と「食事・飲食店」。
- 北陸旅行との比較では、いずれの要素も北陸旅行の方が高く、特に差が大きいのは「景観」、「食事・飲食店」、「宿泊施設」、「交通の便」。

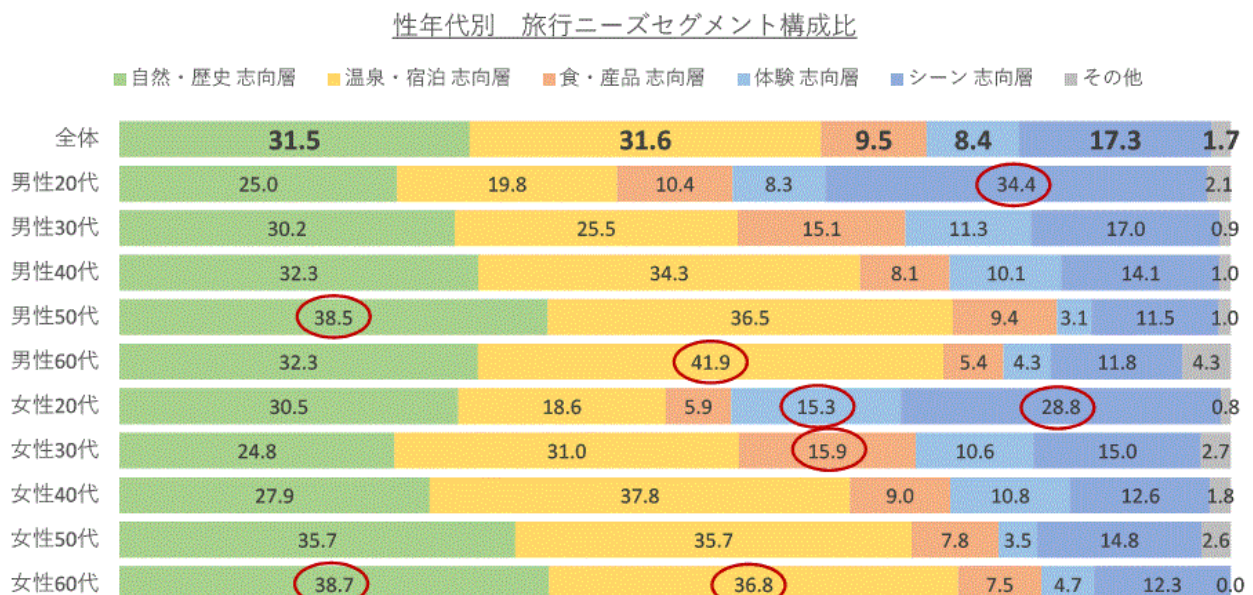


36

国内旅行に対するニーズ ②旅行重視点による顧客セグメント 性年代別の特性

- 旅行ニーズセグメントの構成比は、全体では「温泉・宿泊志向層」31.6%、「自然・歴史志向層」31.5%構成比が大きく、次いで「シーン志向層」17.3%、「食・産品志向層」9.5%、「体験志向層」8.4%となっている。
- 性年代別の特徴として、男女ともに50~60代の高年齢層で「温泉・宿泊志向層」と「自然・歴史志向層」、男女ともに20代で「シーン志向層」、女性20代で「体験志向層」の構成比が高い。

(%)

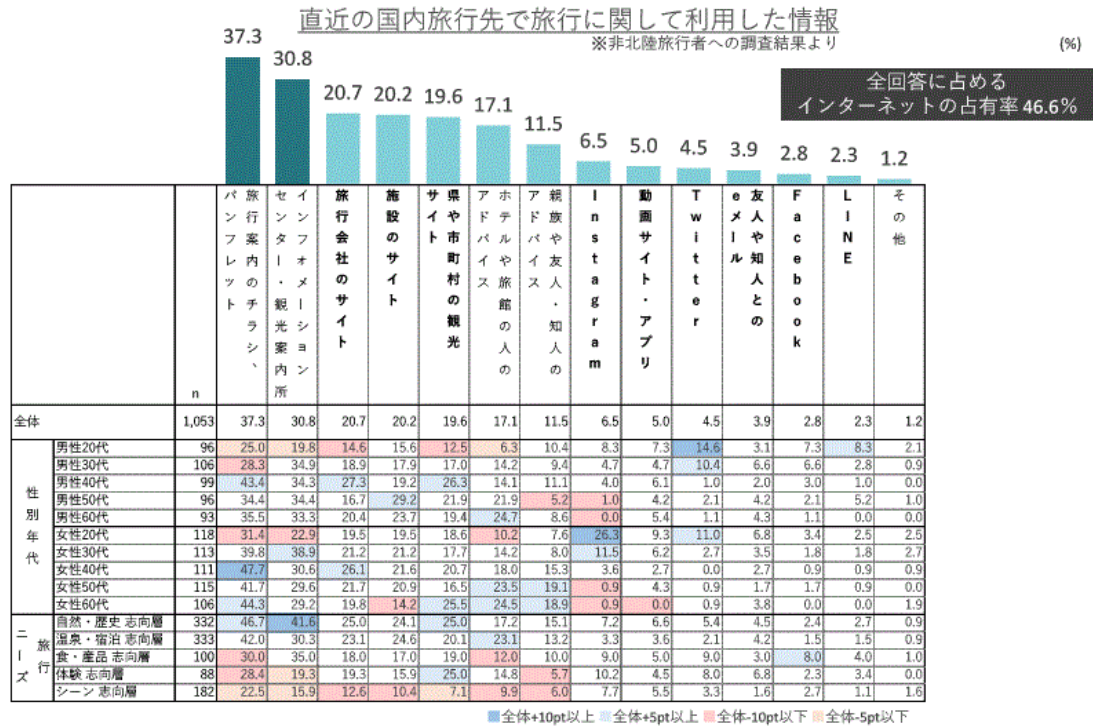


※旅行ニーズセグメントの「その他」は、国内旅行の旅行先を決める際の重視点として、「その他」(提示20項目以外)のみ回答した人

9

国内旅行に関する情報源 ②直近の旅行中に利用した情報

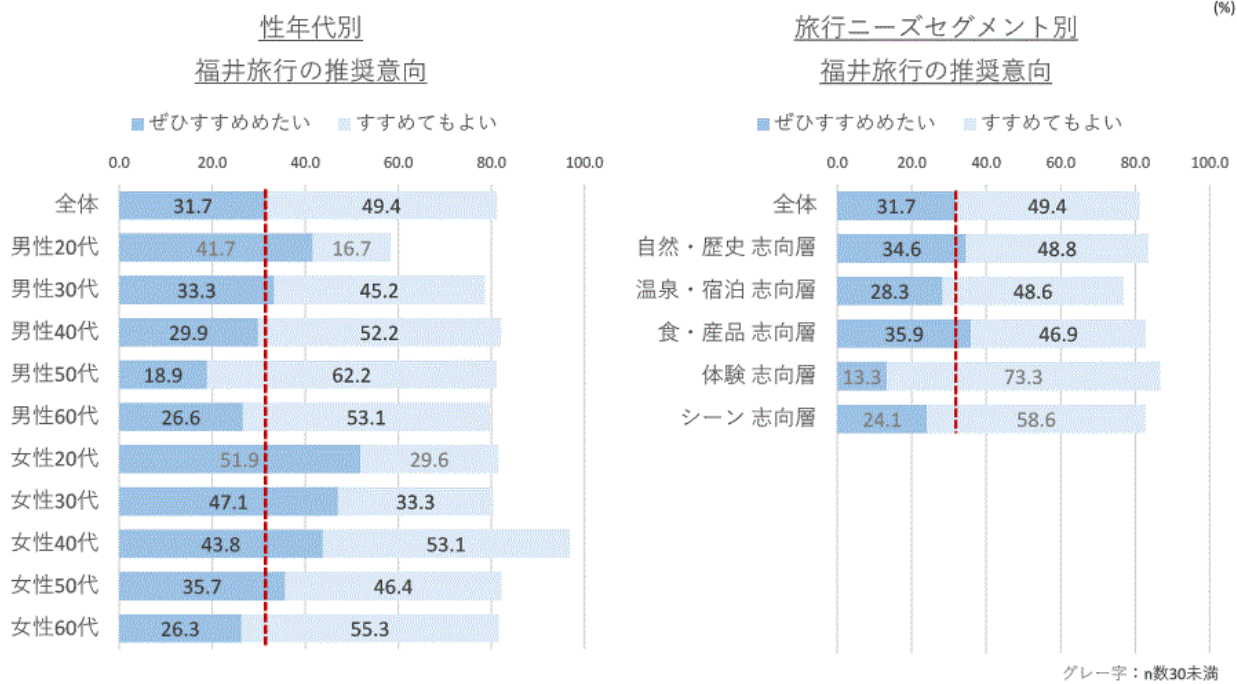
- 旅行中に旅行に関して利用した情報として、もっとも高いのは「旅行案内のチラシ・パンフレット」で、次いで「インフォメーションセンター・観光案内所」が高い。
- 属性によって特徴があり、男性20代では「twitter」、女性20代では「Instagram」が、特に高い。



12

経験者の福井旅行の評価 ②総合評価 属性別

- 福井旅行経験者への旅行の家族・友人知人への推奨意向は、若年層ほど「ぜひすすめてたい」評価が高い傾向。(20代はサンプル数が少ないため参考値)
- 旅行セグメント別では、サンプル数が少ないため参考値ではあるが、体験志向層とシーン志向層で「ぜひすすめてたい」評価が低い傾向。他の層では、全体と同程度。



(出典：福井市観光推進計画)

4-2. 課題

・上記の現状を踏まえると、下記のような課題があると考えられる。

(1) 旅先としての福井の認知度不足・情報発信不足

(2) 国内外の観光客に対する受入環境が不十分

(3) 素材の魅力不足、ニーズへの対応不足

・今後、令和4年10月には「一乗谷朝倉氏遺跡博物館」の開館、令和5年には北陸新幹線福井・敦賀開業を控えており、一乗谷朝倉氏遺跡という超一級の文化財を核とした観光誘客について、大きな契機を迎えることとなる。

・北陸新幹線福井・敦賀開業後においては、首都圏からの来訪者増が見込まれるため、その受入環境の整備が特に課題となる。

・開業までの間においても、観光客数のうち多数（約7割）を占める関西・中京圏へのプロモーションを継続し、誘客をより一層拡大する。

・また、現在、資料館来訪者の年齢別割合は、60～70代が半数近くを占めるが、今後は、歴史に興味のある層（主に60代以上）はもとより、次いで関心の高い40～50代、さらに若い層や子どもたちにも、一乗谷朝倉氏遺跡の価値や魅力を楽しみながら学べる事業を実施するとともに、インバウンド観光を推進し、来訪者層の拡大を図る必要がある。

4-3. 文化観光拠点施設を中核とした文化観光の総合的かつ一体的な推進のため取組を強化すべき事項及び基本的な方向性

取組強化事項1：発信の強化、理解の促進（課題（1）および（2）関連）

・旅行会社、旅行雑誌、ライター等に一乗谷朝倉氏遺跡の魅力を感じてもらうことで、新たな旅行商品造成につなげるとともに、旅行会社等からの情報収集も行い、観光誘客の取組みに反映する。

・外国人旅行者向け情報サイトに、積極的に情報を発信する。

・「一乗谷朝倉氏遺跡博物館」を整備し、遺跡の価値や魅力を国内外へ強力に発信するとともに、来訪者の理解を促進する。

取組強化事項2：受入環境の整備（課題（2）および（3）関連）

・来訪者の周遊動線を意識しながら、遺跡の通信環境を改善する。

・遺跡の案内ツールや紹介サイトについて、最新のデジタル技術を活用する。

・トイレ等便益施設の増設、キャッシュレス決済の推進などにより、遺跡の見学環境を改善し、観光地としての魅力を向上する。

取組強化事項3：交通機関の魅力向上・アクセス改善（課題（2）および（3）関連）

- ・北陸新幹線福井・敦賀開業により、自動車ではなく公共交通機関を利用する観光客が増加することが見込まれる。
- ・その効果を最大限活用するため、JR福井駅と一乗谷朝倉氏遺跡を結ぶ交通機関や、資料館（新博物館）と遺跡とを回遊する交通機関の魅力向上・アクセス充実を図り、利用者の利便性や満足度を高める。

取組強化事項4：滞在時間の延長と地域経済の活性化（課題（3）関連）

- ・「一乗谷朝倉氏遺跡博物館」開館後においては、新博物館を遺跡のゲートウェイと位置付け、貴重な歴史資料を公開する特別展の開催や集客力のあるイベント実施などにより、年間約20万人の来館を目指す。
- ・遺跡においては、戦国時代の生活をよりリアルに、より楽しく体験できるメニューを充実するとともに、その内容を新博物館の展示とも連動させる。
- ・上述した取組強化事項2：受入環境の整備、取組強化事項3：交通機関の魅力向上は、より充実した滞在時間を観光客に提供することにもつながる。
- ・これらにより、滞在時間を延長するとともに、新博物館観覧、遺跡観光、飲食などをセットで楽しむことを促し、遺跡内やその周辺の飲食施設、土産物店、宿泊施設等における消費活動につなげる。

5. 目標

5-1. 本計画で達成する目標

指 標	実績値		目標				
	H30年	R1年	R2年	R3年	R4年	R5年	R6年
①来訪者の満足度（日本人） 単位：%	-	35	35	35	40	45	45
（指標の把握方法）福井市等が実施する調査等のほか、遺跡においてアンケートを実施し、満足度5段階評価で最も高い評価者の割合を把握							
②来訪者の満足度（外国人） 単位：%	-	35	35	35	40	45	45
（指標の把握方法）福井市等が実施する調査等のほか、遺跡においてアンケートを実施し、満足度5段階評価で最も高い評価者の割合を把握							
③来訪者数（日本人） 単位：人	65,000	88,000	90,000	90,000	140,000	200,000	200,000
（指標の把握方法）一乗谷朝倉氏遺跡資料館（令和4年10月から新博物館）の入館者数を把握							
④来訪者数（外国人） 単位：人	325	440	450	450	700	1,000	1,000
（指標の把握方法）一乗谷朝倉氏遺跡資料館（令和4年10月から新博物館）の外国人入館者数を把握							
（10年後の目標値及び計画期間中の目標値との関係） 10年後（令和11年度）においても、新博物館入館者数20万人を維持							
⑤福井市内観光客入込数 単位：万人 ※福井市観光振興計画より	419	420	427	436	444	500	525
（指標の把握方法）福井市内における各施設の観光客入込数をもとに把握							
⑥福井市内外国人宿泊者数 単位：人 ※福井市観光振興計画より	22,800	25,400	26,000	26,500	27,000	70,800	75,000
（指標の把握方法）観光庁の宿泊旅行統計調査をもとに把握							
⑦福井市内観光消費額 単位：億円 ※福井市観光振興計画より	272	294	300	306	312	349	366
（指標の把握方法）福井市内観光客入込数をもとに把握							

5-2. 目標の達成状況の評価

- ・令和5年度の新博物館の入館者数の状況（目標：年間約20万人）、入館者アンケートの回答の集計によって、令和4年度までの事業の効果を検証する。
- ・計画期間終了後においても、新博物館の入館者数が年間約20万人の水準を達成できているかによって、検証・改善を行う。

6. 地域文化観光推進事業

6-1. 事業の内容

6-1-1. 文化資源の総合的な魅力の増進に関する事業

(事業番号 1-①)

事業名	最新デジタル技術導入事業
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 客層を問わず遺跡観光を楽しんでもらえるよう、案内ツールや紹介サイトに最新のデジタル技術を導入していく。 ・ 遺跡の魅力をよりリアルに、より楽しく体感できるAR・VRの制作、資料館（新博物館）および遺跡現地の情報をリアルタイムで入手できるポータルサイトの構築、オープンイヤー型のオーディオガイドや Beacon 等の技術を活用した案内ガイドの開発を実施するなど、遺跡の見学環境を向上する。 ・ 上記遺跡の各種案内ツールは、新博物館・遺跡共通で使用できるものとするほか、山城の登山や英語・中国語等多言語化に対応したものを開発する。 ・ また、新博物館においては、遺跡のガイダンス映像や石敷遺構紹介映像をCG再現やARを活用して新たに制作し、当時の様子をリアルに体感できる展示を行う。
実施主体	一乗谷朝倉氏遺跡活用推進協議会、福井県
実施時期	令和2年度～令和6年度
継続見込	令和4年度から運用開始（財源は福井県・福井市の負担金等）
アウトプット目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 令和2年度にデジタル技術導入に関する基本計画を策定。 ・ 令和3年度から令和5年度にかけて、基本計画に基づきツール作成。 ・ 令和4年度にポータルサイトを構築。
関連目標	取組強化事項2、目標①～④

(事業番号 1-②)

事業名	体験メニュー充実事業
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 遺跡現地において、着付用の時代衣装や、出土遺物の復元品を活用し、戦国時代の生活をよりリアルに、より楽しく体感できる体験メニューを充実する。 ・ その内容は、資料館（新博物館）の展示とも連動させる。
実施主体	一乗谷朝倉氏遺跡活用推進協議会
実施時期	令和4年度～令和6年度
継続見込	令和4年度から運用開始（財源は福井県・福井市の負担金等）
アウトプット目標	令和4年度から現地において体験メニューを提供。
関連目標	取組強化事項4、目標①～④

6-1-2. 地域内を移動する国内外からの観光旅客の移動の利便の増進その他の地域における文化観光に関する利便の増進に関する事業

(事業番号2-①)

事業名	交通手段魅力向上事業
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> 交通機関利用者の満足度向上のため、周遊バスのリニューアルなど交通機関の魅力を向上する。 乗ること自体が来訪の目的・思い出となるような車両のデザインや、案内ガイドが同乗し、資料館（新博物館）と遺跡の双方を回遊するバスの導入などを実施する。 また、自家用車による来訪者の利便性を向上するとともに、レンタサイクルなど現地で手軽に借用し、遺跡を周遊できる交通用具を導入する。 併せて、JR福井駅からの増便運行や、共通乗車券の開発なども検討し、交通網の拡充を図る。
実施主体	一乗谷朝倉氏遺跡活用推進協議会、福井県、福井市
実施時期	令和3年度～令和6年度
継続見込	令和4年度から運行開始（財源は福井県・福井市の負担金等）
アウトプット目標	<ul style="list-style-type: none"> 令和3年度から令和4年度にかけて、関連するバスのリニューアル等を実施。 令和4年度に、案内ガイドとともに資料館（新博物館）と遺跡とをセットで回遊するバスを導入。 令和4年度にレンタサイクルを導入。※需要に応じて令和5年度以降追加導入。
関連目標	取組強化事項3、目標①～④

(事業番号2-②)

事業名	利便性増進事業
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> 遺跡の見学に係る観光客の利便性増進を図る。 例えば、下記の実施により、多くの観光客がより快適に見学できる環境に改善する。 <ul style="list-style-type: none"> 資料館（新博物館）から遺跡まで徒歩で移動する観光客や山城登山者のさらなる増加を見込み、手荷物の預かりや移動経路途中でのトイレ休憩を可能にする環境の整備 キャッシュレス決済のさらなる普及を見込み、遺跡内の復原町並、飲食施設、土産物店などにおけるQRコード決済やクレジットカード決済への対応を推進 夏季の猛暑、冬季の豪雪など遺跡見学に支障のある様々な天候に対応できる環境の整備 周遊動線、見学箇所や休憩所等におけるバリアフリー化の推進と夜間照明等整備 資料館（新博物館）、遺跡およびその周辺における見学に必要な情報（所在地、周遊ルート、駐車場の位置・状況等）の適切な提供 また、多言語化については、遺跡の各種案内ツールを英語・中国語等多言語化に対応したものとしていく（事業番号1-①）ほか、新博物館のリーフレットやサインについて、日本語・英語を中心に、台湾・中国をはじめアジア圏からの来訪者が多いことを踏まえ、

	中国語（簡体字・繁体字）、韓国語に対応したものとしていく。
実施主体	一乗谷朝倉氏遺跡活用推進協議会、福井県、福井市
実施時期	令和4年度～令和6年度
継続見込	令和6年度に終了
アウトプット目標	令和4年度から令和6年度にかけて、トイレ休憩やキャッシュレス決済等が可能な見学環境に改善。
関連目標	取組強化事項2、目標①～④

6-1-3. 地域における文化観光拠点施設その他の文化資源保存活用施設と飲食店、販売施設、宿泊施設その他の国内外からの観光旅客の利便に供する施設との連携の促進に関する事業

(事業番号3-①)

事業名	割引クーポン開発事業
事業内容	・旅行会社に協力を依頼し、資料館（新博物館）、遺跡、周辺飲食施設、宿泊施設等をセットで楽しめる割引クーポンを発行し、より充実した滞在時間を観光客に提供する。
実施主体	一乗谷朝倉氏遺跡活用推進協議会
実施時期	令和4年度～令和6年度
継続見込	令和4年度から運用開始（財源は福井県・福井市の負担金等）
アウトプット目標	令和4年度～令和6年度に割引クーポンを発行。
関連目標	取組強化事項4、目標①～④

6-1-4. 国内外における地域の宣伝に関する事業

(事業番号4-①)

事業名	インバウンド推進事業
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・福井への来訪が最も多く、親日家・リピーターも多い台湾からの誘客のため、現地旅行博への参加および現地旅行会社等への観光素材として売り込みを行う。 ・WEBで旅行情報を収集する傾向のある台湾人に向けて、台湾最大規模の日本観光情報サイトやSNS等にてPRを行う。 ・海外にいながら福井を体感できるオンラインツアーを実施する。 ・人気アニメや福井名産品を活用した観光PRを行う。
実施主体	福井市
実施時期	令和5年度～令和6年度
継続見込	令和5年度以降実施（財源は福井市の予算等）
アウトプット目標	令和5年度～令和6年度にかけて情報発信を実施。
関連目標	取組強化事項1、目標②・④・⑥

6-1-5. 1. ~4. の事業に必要な施設又は設備の整備に関する事業

(事業番号5-①)

事業名	遺跡内通信環境改善事業
事業内容	・一乗谷朝倉氏遺跡内において、来訪者の周遊動線を意識しながら、全キャリア対応の無料Wi-Fiスポットを増設し、見学者のスマートフォンによる情報取得・SNS発信や、事業番号1-①の最新デジタル技術の使用に必要となる通信環境を改善する。
実施主体	一乗谷朝倉氏遺跡活用推進協議会
実施時期	令和2年度～令和5年度
継続見込	令和3年度から運用開始（財源は福井県・福井市の負担金等）
アウトプット目標	令和2年度から5年度にかけて、無料Wi-Fiのアクセスポイントを増設。
関連目標	取組強化事項2、目標①～④

(事業番号5-②)

事業名	体験用施設改修事業
事業内容	・事業番号1-②の体験メニュー充実に合わせて、復原町並など関連エリアの施設を体験メニュー提供に対応できるよう改修する。
実施主体	一乗谷朝倉氏遺跡活用推進協議会
実施時期	令和3年度
継続見込	令和4年度から運用開始（財源は福井県・福井市の負担金等）
アウトプット目標	令和3年度に改修を実施。
関連目標	取組強化事項4、目標①～④

(事業番号5-③)

事業名	交通手段魅力向上施設整備事業
事業内容	・事業番号2-①の交通手段魅力向上に合わせて、環境配慮型車両用設備、駐車場、駐輪場、最寄り駅の周辺整備と移動環境向上、バス停留所など、必要な施設の充実を図る。
実施主体	一乗谷朝倉氏遺跡活用推進協議会、福井県、福井市
実施時期	令和5年度～令和6年度
継続見込	令和5年度から運用開始（財源は福井県・福井市の負担金等）
アウトプット目標	令和5年度から令和6年度にかけて、交通手段の魅力向上に資する施設を充実。
関連目標	取組強化事項3、目標①～④

(事業番号5-④)

事業名	便益施設充実事業
事業内容	・事業番号2-②の利便性増進のため、例えば下記の便益施設の充実を図る。 ・資料館（新博物館）から遺跡までの移動経路（山城登山道を含む）途中におけるロッカーやトイレ設置 ・関係施設におけるキャッシュレス決済対応券売機の設置 ・暑熱等対策機器（散水装置等）の設置 ・見学箇所、休憩所等のバリアフリー化改修 ・地図入り案内板の整備
実施主体	一乗谷朝倉氏遺跡活用推進協議会、福井市
実施時期	令和4年度～令和6年度
継続見込	令和6年度に終了
アウトプット目標	令和4年度から令和6年度にかけて、トイレ等の便益施設を充実。
関連目標	取組強化事項2、目標①～④

6-2. 特別の措置に関する事項

6-2-1. 必要とする特例措置の内容

事業番号・事業名	
必要とする特例の根拠	文化観光推進法第 条（ 法の特例）
特例措置を受けようとする主体	
特例措置を受けようとする事業内容	
当該事業実施による文化観光推進に対する効果	

6-2-2. オブジェ等の設置に関する取組等

申請の名称	
申請の根拠法令・条項	
設置の目的	
設置期間	
設置場所	
オブジェ等の構造	
オブジェ等の工事実施の方法（※）	
工事期間（※）	
復旧方法（※）	

6-3. 必要な資金の額及び調達方法

（単位：千円）

	総事業費	所要資金額		調達方法
		自己資金	その他	
令和2年度	18,000	6,000	12,000	博物館等を中心とした文化クラスター事業
令和3年度	60,000	20,000	40,000	博物館等を中心とした文化クラスター事業
令和4年度	48,000	16,000	32,000	博物館等を中心とした文化クラスター事業
令和5年度	48,000	16,000	32,000	博物館等を中心とした文化クラスター事業
令和6年度	48,000	16,000	32,000	博物館等を中心とした文化クラスター事業
合計	222,000	74,000	148,000	博物館等を中心とした文化クラスター事業

7. 計画期間

令和2年度～令和6年度